

2022.2.24 (木)
第27回例会
(通算3654回)

2020-2021年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン『我がロータリーを楽しむ。我が地域を育む。』

第85代会長 杉村 莊平
副会長 浅川 正紳
幹事 市橋 多佳丞
編集責任者 クラブ会報雑誌委員会

例会日 毎週木曜日 12:30 ~ 13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町 5-3 ミツ輪ビル 2F
☎ 0154-24-0860 📠 0154-24-0411

2021-2022年度
国際ロータリーテーマ



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

2021-2022年度
RI会長 シェカール・メータ
第2500地区ガバナー
漆崎 隆 (釧路ベイ RC)

月間テーマ	平和と紛争予防／紛争解決月間
本日のプログラム	釧路市長講話 「つながる まち・ひと・みらいひがし北海道の拠点都市・釧路」(担当：プログラム委員会)
次週例会	会員卓話「元町おてら食堂をはじめとする地域活動」(担当：プログラム委員会)

- ロータリーソング：それでこそロータリー
- ソングリーダー：廣部 雅資君
- 会員数 103名
- ビジター なし
- ゲスト 釧路市長 蝦名 大也様

会長の時間 杉村 莊平会長



皆さん、こんにちは。残念でございますが、まん延防止期間が延長になりましたので引き続き、期間中は夜例会を中止させていただきたいと思っております。3月31日に夜例会再開日を指して準備していきたく思っております。なかなかコロナから離陸しての安定飛行が続かないところでございます。こういう時だからこそ、しっかり気持ちを切らさず、こうやって皆さんにお会いできる例会をしっかりと続けて重ねていきたく思っております。何とかご理解・ご協力をよろしくお願いしたいと思います。

このコロナに関しまして、前の会合つづりを見てもありましたら、ちょうど天方年度の2月27日当時の例会の後から、コロナによる例会休止が始まっております。そう考えるとロータリー活動がコロナの影響下に入って丸2年という節目になります。改めてこんなに長くなるとは思っていませんでしたが、これまで多くのものが犠牲になったことを考えますと、いま市長ともお話ししていましたが、もうそろそろコロナに関する考え方を進化・成熟させていって、このコロナに対する対応策も次の新たなステージにしていかなきゃならないのかなと個人的には思っているところでござい

ます。

コロナの話が続けたいと思います。このコロナに関してロータリーが影響を受けたということで前に1回お話ししましたが、この1年ぐらいい入会された方々が、そもそもロータリーで夜例会を経験したことがない。ロータリーでお酒を飲んだことがないということになってしまったお話をしたことがあると思います。考えてみますと、もうひとつロータリーが影響を受けていることがあります。この2年以内にロータリーに入った方は例会の食事中に、回るテーブルを経験していないことに思い当たりました。多分、もうそろそろ、まあまあの数になってきているんじゃないかなと思います。

そう考えると、懐かしい感じがしますが釧路クラブの例会は回るテーブルにお櫃に入ったご飯と何品かのおかずが乗ってしまっていて、声をかけながらテーブルの人数を確認しながら絶妙に取り分けをして、上手く余らないようになるのですね。なおかつ、食後もこのテーブルにいる若手が率先して(圧力じゃないですよ)コーヒーを入れて、皆さんにお配りするという素晴らしい社会学習システムが機能していたわけでございます。如何せん、これが最近できていないことに気付きました。そう考えると青田パスト会長が当時の青田会長年度のご挨拶の時にこんな話をしていました。「他のクラブにお邪魔すると、結構黙々と食事をしてるんだ」と。釧路クラブはテーブルが回る仕組みが

機能しているおかげで、この食べ物以外にもテーブルの中で何か温かいものが伝わっていくのではないだろうか。だからこそ釧路クラブは例会中に穏やかな談笑ができていないか。釧路クラブは食事をしながらロータリー精神を培っている素晴らしいクラブなのだ。というお話を会長の時にされていました。全くそのとおりだなと思っておりまして、当面の目標として、回るテーブルを何とか今年度中に杉村年度に復活させて釧路クラブで何十年続いた歴史が分かりませんが、早くその文化を復活させたいなと思っております。

本日はこのコロナの影響を全く感じさせず、蝦名市長が来ていただいております。本当にお忙しいところありがとうございます。

蝦名市長と私は青年会議所で平成9年入会同期でございます。お知り合いになって25年になります。私が見ている限り、25年間市議・道議・市長と本当に釧路のために休みなく25年間働き続けてこられた方だと思っています。

釧路クラブも今年度は地域を育むというテーマを掲げておりまして、この釧路市に本当に待たないのいろいろな課題を持っている所だと思います。市長におかれましては、長年この釧路の課題に向き合っていた中で、本日は忌憚のなくその辺のこともお話しただいて、有意義な時間にしたと思いますので、改めて、本日よろしく願いいたします。

それでは、本日の例会よろしく願いいたします。ありがとうございます。

幹事報告 市橋多佳丞幹事

皆さま、こんにちは。例会の幹事報告をさせていただきます。皆さま方にお配りしております例会案内ですが、他クラブの例会につきま



しては3月の釧路東さん、ベイさん、北さんのプログラムが事務局への配信が間に合わなくて記載できませんでした。最新のお話では、東・ベイ・北さんともすべて例会を通常通り開催されるとお聞きしております。プログラム等お知りになりたい方いらっしゃいましたら、私にお声がけいただければと思います。

また、3月の例会プログラムは本日、皆さまに配信をさせていただく予定となっております。先ほど、杉村会長からもご挨拶ありましたが、コロナのまん延防止と重点措置の進み具合・解除具合によっては、また多少プログラムの変更等々せざるを得ない場合もあるかと思っております。現状でのご案内をさせていただきますのでご一読をよろしく願いいたします。以上

でございます。

■本日のプログラム■

市長講話「つながるまち・ひと・みらいひがし北海道の拠点都市・釧路」

蝦名 大也 釧路市長



皆様こんにちは。そしてまた、本日は誠にありがとうございます。釧路ロータリークラブの例会の中で、お話をさせていただく機会をいた

だきましたことに、改めて感謝を申し上げる次第であります。そして今、杉村会長から大変温かいご紹介をいただき、本当に感謝に堪えないところであります。用意しておりますのは予算の関係なのですが、忌憚のない話しということでもありますので、資料以外の違う話もしながら、新年度のポイントになるところをお話できればと思っている次第であります。

現在のコロナの状況は、3月6日までまん延防止が続いておりますが、何とかこれを最後にすべく、釧路市全体で取り組んでいかななくてはならないと思っております。私は、空気ができ上がった時に、中々違うこと言いつらい環境になってしまって、どうしても自粛という空気が多くなってきた時に、それ以外のことを言う「それはおかしいのではないか」というように言われる流れというのは非常に恐ろしいものだと思っております。

例えば、今、オミクロン株が主流となる中、テレビでは「重症化率は減っている」と報じるとともに、死者も増えていると報じています。重症化率が減って死者が増えるというのはおかしい話なのです。本来であれば、それはなぜかを説明しなくてははいけません。重症化率が上がって死者が増えるのが一般的であって、重症化率が下がっているのに死者が増えているということは、「突然、容態が急変するケースがたくさんあるのか」となりますが、こういった説明はテレビなどでは一切してくれないのです。

言い方を変えると、亡くなった方を検査した結果、「新型コロナで亡くなった」という情報がない限り、言葉として成り立たない話になります。そういった意味で実態が公表され、それをしっかり皆で議論するべきだろうと。私は、以前から3次医療圏ごとの重症者数等の詳細な数字を公表するようお話をしています。しかし、個人情報ということで、公表されておりません。ここまできたら、そのような話ではないだろうと思っております。

もう一つ、先日の新聞にこういった記事がありました。「原油の高騰」という中で、当初は「石油元売り会社への補助金で対応」とされていたところ、国会の議論

も踏まえて、トリガー条項を発動させてガソリン税を約25円下げること視野に入れた検討について、国会で触れられたというものです。

このことについて、昨日の日本経済新聞では、トリガー条項を発動すると地方自治体の収入が減ると報じられました。ガソリン税は国税の揮発油税と地方揮発油税の2つに分かれており、軽油引取税は地方税で都道府



県に入る仕組みになっています。トリガー条項はこれらにかかっており、地方の収入が5,000億円ぐら減るとされているため、発動には、地方自治体が皆、反対するだろうという記事が出ておりました。

トリガー条項発動による影響額は1兆5,000億円程度となっており、そのうち3分の1が地方に入る仕組みとなっています。このうち地方揮発油税は全国で300億円程度、釧路市では2,000万円程度となっており、軽油引取税は5,000億円程度、都道府県に入る仕組みになっています。

地方よりも国の方が減収になる実態があるにもかかわらず、報道機関が「地方に影響が及ぶのでトリガー条項の解除ではなく、国が補助金を5,000億円出せばいいのではないか」、「地方と相談しながら、痛み分けしましょう」という論調をつくっているように、私は感じたのです。今、地方が大変だという時にこういうロジックですよ。

地方交付税につきましては、私が自民党の道議会議員であった当時、小泉首相が「みんなで我慢していこう」と三位一体の改革を行ったところであり、あの時の論点はこういうことなのです。それまで地方交付税は、大体1年間で2兆2兆円ぐらのお金の規模の中でやってきました。ところが、地方交付税の財源については、例えば、所得税、法人税、酒税が何%と決まっております、それが大体1兆5兆円なのです。

原資が1兆5兆円にもかかわらず、地方に配っているお金が2兆2兆円となっており、7兆円合わない。だからこれを俗にいうプライマリーバランスみたいなものですが、合わせるのが目的で合わせないとおかしいというロジックだったのです。

財源は1兆5兆円で、今は2兆2兆円使っている。これは出す側の理屈としては一見正しい。しかし、国全体を考えた時に、地方自治体というのは積み重ねて現場で様々なことを行って、そこでトータル2兆2兆円が必要なのです。自治体が積み重ねてきたことを抜きにして、1兆5兆円に合わせていきましょうという論点は絶対おかしいと、道議会の中から、当時は青年局長でしたから色々と言ってまいりました。最終的には、地

方の力が及ばない状況の中で、引き下げられました。そういったものが非常に多い。

ですから、今回のトリガー条項発動については、「今、原油が100ドルを超えた」という状況の中、しっかり頑張ってくださいのために一番簡単にできることは税金を下げることで。であれば、1兆5,000億円といっても1兆円は国に入る仕組みとなる中、5,000億円補助を出せば燃油価格が下がるのだから、それを「地方と相談しながら、痛み分け与えましょう」というロジックが報道によってつくられるのは、私はどうなのかなという思いをしながら、見ておりました。ですから私は、正しい情報を少なくとも釧路市内の情報についてはごまかさず、適切に全部出して行って、そして全体の中で考えられる環境を作っていくことが望ましいと思っています。

例えば、「我慢は美德」は間違いなくそうだと思います。このことに関し、歴史学者の加藤陽子さんの本を読んで、私が一番印象に残っている戦争についての話があります。第二次世界大戦の際のドイツ軍と日本軍について、どれだけカロリーを接種していたか比較対照された文章がありました。すると、日本は当たり前のように物がありませんから、どんどん接種カロリーが低下した一方、ドイツを含めて海外の軍人は、カロリー消費が上昇したのです。確かに、昔日本も「腹が減っては、戦は出来ぬ」ということで、「色々やるのだから食べよう」というようになった。それが、どんどん「我慢していくことが美德だ」という方向に進んでいった。「武士は食わねど高楊枝」ということわざもありますけど、それはもうちょっと違う意識の美意識だと思っておりますが、段々と「みんなで我慢することが正しいよね」という風潮になってきて、その結果、摂取カロリーが下がっていったということ、加藤さんの本を読んだ時に思ったところがあります。

コロナ禍により、経済は大きな打撃を受けました。例えば、あるお店で100万円の収入で運転していたものが、コロナ禍で収入が50万円に半減したのでお金を借りました。無利息ですからね。それを返すためには、収入が100万円に戻るだけではなく、100万円以上にならなければ返済できません。であれば、そういった状況を迎える前に借金の返済が始まるのか。そんな馬鹿なことはないだろうということ、色々な場面で声を上げて、しっかりやっけていかなくてはならないと考えております。

このことは、我々の市政についても同じであります。様々なご意見をいただきたいと思っております。ただ、私たちの場合は力の限度がありますので、どういったことができるかということはある程度あります。しかし、課題については徹底的に検討を進めていきたいと思っております。それでは、用意した資料に入っていきます。最初のページは新年度の予算規模について、その次の

ページは公共事業の状況、そして、3ページ目は、これから経済を立て直していくための各種事業について記載されております。令和4年度予算の記者発表の際に、記者の方から「子育てを重視する」のは、初めてではないかと言われました。私が子育てと言ったことに違和感を持ったようで、これは失礼だなと思ったのですが、私は「子育てが重要であることに違いはないが、子育て環境を整備することでは、人口減少社会には対応できない」という言い方をしているのです。「人口減少社会に対応するためには、経済・企業活動の活性化が必要である」というお話です。そして、「経済活動・暮らしを充実させていくために、しっかりと子育て環境の整備に取り組んでいく」という考えのもと、各種施策を進めているところであります。例えば、他地域から人を確保するのにも、働く所は良いが、子育て環境や教育環境が悪ければ、子どもや家族を連れて来ません。

あわせて、人口減少社会の原因である少子化の問題です。合計特殊出生率、「一人の女性が一生の間に子どもを何人産むか」という数値が1.4台だと思います。現状の人口を維持するためには2.07という数字が必要ですが、まち・ひと・しごと創生総合戦略では、世界の上手くいっているフランスの1.8を目指しているところですよ。

もう一つ、結婚した人の出生率という指標があって、これは絶対に新聞は書かないのですが、これは、ほぼ2人となっております。そして、その中で婚姻率が下がってきているのです。どうして下がっているのか、相手の問題など色々あります。しかし、経済的に先々の展望が開けないがために、結婚に踏み切れない事例もたくさんあります。このため、将来の展望を持つことができる環境を作っていくことが望ましいということなのです。

ですから私は、この地域の中で所得が確保できるよう経済の活性化を図る必要があります、そのために子育て環境を充実させていくという言い方をしています。

こういったお話をする場面がないところですが、実は一つひとつにこういった意味・意義・思いを込めながら、この予算編成等々を行っているところであります。次のページはPRを含めてお話しします。デジタル・トランスフォーメーションの推進につきましては、釧路市の情報をLINEで発信ということで、釧路市ホームページにQRコードが掲載されておりますので、是非ご登録いただきたいと思っております。

こちらの取組は、子育てに関する情報が市民の皆さんにしっかり伝わっていないという中で、LINEの活用によるプッシュ型の情報発信を行っていくということからスタートし、去年から取組を進め、完成できたところですよ。今後、防災やコロナの情報なども発信するなど、少しずつ充実させていきたいと思っております。

今朝の段階で、まだ4,000人台の登録者数となっており、市役所内でも「月末までに職員全員登録を」ということで進めておりますことから、ぜひ皆さんもご登録いただき、使いづらいですとか、こういう情報が欲しいなど、ご意見をいただきながら、バージョンアップさせていきたいと思っております。

その他の個別の部分については様々ありますが、その中でもこれから大きな議論になってくるであろう「鉄道高架を含めた釧路駅周辺のまちづくり」の考え方についてお話しします。

このまちづくり計画のポイントをすごく乱暴な言い方をしますと、「車社会からの脱却」という考え方がベースにございまして、車社会が地方の疲弊を加速したという立ち位置から始まっているものであります。「車社会の世の中で、何を言っているんだ」と言われるかもしれません。

しかし、今まで歩んできた歴史を振り返った時に、車中心で物事を進めていって、その結果どうなってきたのかという考えから、この議論がスタートしております。昔は釧路の北大通はもっと狭かったのです。しかし、物流・経済も含めてでありますけれど、そこを車が通行しやすくしていきましょと道路を拡大していったのです。併せて、昔は住むところと働くところが一緒だったものを、そこに都市計画の中で職・住分離という考え方のもと、郊外に良好な住環境を作り、住むところと働くところを分離していった。そうするとどうなるか。まちの中からは住む人がどんどんいなくなり、小学校の中で一番大きかった旭小学校がなくなってしまったのです。

世界に目を向けてみると、自分が行ったことがないのですが、特にヨーロッパに行くと、通過型の交通をまちの中に入れないまちづくり・都市計画が成り立っています。ある意味、人がたくさんいるところは通行しづらい、交差点も車道に段差が設けられており、スピードを落とさなければならぬようになっています。このような観点を駅・北大通の900m、リバーサイドのエリアに取り入れて通過型の車を排除していく、もちろんこのエリア内を目的地とする車は排除しません。通過型を排除し、駅・北大通に賑わいをつくっていくという考え方で行っているのが、この釧路駅周辺の計画であります。

この背景については、もう1点あります。私も様々な会社を企業誘致の営業活動で回ってまいりまして、その時に北大通の図面を持って行ったり、空きビルの情報を持って行ったりして、ぜひこういう所に進出して下さいと説明に行きました。市長という立場をいただいておりますので、初めて行った所でも社長などのクラスの方がみんなお会いしてくれます。営業する時にトップとお話しできるのは、大変ありがたいことでもあります。

そして、営業して回った結果、釧路市に来てはくれるのだけれど、北大通・中心地は絶対選ばれないのです。全部、全敗しました。どうしてなのだろうと。皆さんそうだと思いますが、会社が出店する時には判断の基準がありますよね。将来展望や見込み、1日当たりどれだけの人がそこを歩いているか、歩いているかですよ。

例えば、1日当たり4,000人か4,500人、これぐらいの人が通っている所だったら出店ができるよねという基準です。とある会社を訪問した時に、「私も平日、頻繁に行きますよ」と言ったら、先方は「平日はそうですが、土日は人がいませんよね」と言われまして、ここで北大通・中心地は基準に該当しないのです。逆に考えれば、平日も土日もこの中心地に人がいたら、敢えてこちらから誘致しなくていいのかなど。思い上がった考えではなく、ビジネスの環境を作れば、間違いなく様々な企業が自らの判断で「ここに来よう」となるという意味合いでのお話です。

また、全市的な施設を中心地に持ってくる。今までの釧路の都市計画では、まちが拡大していく中で、各施設を川に分断された3つの地域それぞれに作って、それぞれの地域を充実させていきましょう。若しくは、こちらの地域にこの施設を作ったから今度はこちらの地域にというように、バランスを取るような感覚の中でまちづくりを進めてまいりましたが、全市的に使う施設は全てまちの中心地に設置する。例えば、市民文化会館であるとか、既に実施した例で言えば図書館を持ってきました。今度は、子育て環境の充実という観点から、MOO5階の多目的アリーナに乳幼児の遊び場を作って、これも次なる展開もあるのですが、アベレージ的に4,500人なのか5,000人という人の流れをこのまちの中に作る事ができれば、色々な企業がビジネスチャンスとして捉えて来るのだろうと考えております。何を中心地に誘致してくれば人が集まるのかという今までの考え方ではなく、人がいる環境を作った時に企業が中心地に進出してくるという考え方です。ですから、そのために北大通の歩道をぐっと広げ、車道を狭くするというように、土台となる社会基盤を整備して賑わいの創出につなげていく。車が少なくなれば、交通事故の観点からも子どもを連れて来やすくなります。

例えば、富山市ではライトレールを道路の真ん中に作りました。この事業をスタートした当時の森市長は、公共交通のことで色々取り組まれていた方です。富山市の事例におきましても、やはり道路を狭くするのがベストだったと考えます。公共交通を守る上で、道路を狭くして車を排除することによって物事がうまく進んでいます。こういったことをしっかりと進めていくということなのです。

中心市街地の活性化に関する法律が施行されたのは平

成10年。実はその前から中心地の活性化に取り組んできているのです。平成10年から24、25年。しかしながら、20年も30年もやって成功していないことは、そもそもやり方が間違っているのではないかと、根本を考えた方が良いのではないかとという視点に立った上で、さっき言ったようなビジネスの環境などについて、しっかりと説明をしていく必要があると考えています。今までの都市計画が間違っていたとは言いません。その時には適切であったものが、現在の状況にどう影響しているのかを検証しながら進めていった時に、車社会が地方の中心地の疲弊をどんどん加速したのではないかと。だから車を賢く使っていきながら、このまちの中で賑わいをつくる。そのためには、市民の皆さんに中心地に来ていただくしかありません。市民の皆さんが来てくれた時に、初めてその環境ができてくるわけでありますので、この達成に向けて計画・プランニングしていることをご理解いただければありがたいと思います。

北大通と共栄新橋大通の接続がL型であるとか、様々なご意見があります。しかしながら、根本的・基本的な考え方のところをご理解いただき、こういった中で可能性が出てきた時、世の中の見方などが変わってくるのだろうと思っております、これをしっかりと成し得ていきたいと考えているところであります。

釧路駅周辺の整備については、令和5年に計画をまとめて、令和6年に国からの承認をもらうよう進めているところでございます。

こういった趣旨で進めてまいりたいと考えておりますことから、釧路の経済をお支えいただくとともに、地域に対する温かい心を持ちながら様々な取組を進めていただいております釧路ロータリークラブの皆様方に、ご理解とご協力を心からお願い申し上げまして、私からの新年度予算のポイントを含めたお話とさせていただきます。

ありがとうございました。